

科目名	1. 職務の理解	時間数	6時間
到達目標・評価の基準	<p>【ねらい】  研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。</p> <p>【修了時の評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険によるサービスの種類と、サービスが提供されている場の特性について説明できる。</li> <li>・介護保険外のサービスの種類と、サービスが提供される意義や目的を説明できる。</li> <li>・介護職の仕事内容や働く現場を説明できる。</li> <li>・ケアマネジメントの流れが説明できる。</li> <li>・チームアプローチについて説明できる。</li> </ul>		
指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修課程全体（130時間）の構成と各研修科目（10科目）相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習全体を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を促す。</li> <li>・視覚教材等を工夫するとともに、必要に応じて見学を組み合わせるなど、介護職が働く現場や仕事の内容を、出来るかぎり具体的に理解させる。</li> </ul>		
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多様なサービスの理解（2時間） <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）介護保険による居宅サービスの種類とその特性</li> <li>（2）介護保険による施設サービスの種類とその特性</li> <li>（3）介護保険外のサービス</li> </ol> </li> <li>2. 介護職の仕事内容や働く現場の理解（4時間） <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）介護サービスを提供する現場の実際</li> <li>（2）介護サービスの提供にいたるまでの流れ</li> <li>（3）職務の理解DVD教材学習</li> </ol> </li> </ol>		

科目名	2. 介護における尊厳の保持自立支援	時間数	9時間
到達目標・評価の基準	<p>【ねらい】 介護職が、利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解する。</p> <p>【修了時の評価のポイント】 ・介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。 ・虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。</p>		
指導の視点	<p>・具体的な事例を複数示し、利用者およびその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す。 ・具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアへの理解を促す。 ・利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。 ・虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す。</p>		
学習内容	<p>I 人権と尊厳を支える介護（6時間）</p> <p>1. 人権と尊厳の保持  (1) 介護における権利擁護と人権尊重  (2) 介護における尊厳の保持の実践  (3) 介護職に求められる人間観と生活観  (4) エンパワメントの視点  (5) 利用者のプライバシーの保護</p> <p>2. ICF  (1) ICFの考え方 (2) ICFの視点とアセスメント</p> <p>3. GOL  (1) 利用者のQOL (2) QOLを広げる視点</p> <p>4. ノーマライゼーション  (1) ノーマライゼーションの2つの大きな流れ  (1) ノーマライゼーションの2つの大きな流れ</p> <p>5. 虐待防止・身体拘束禁止  (1) 高齢者虐待の実態 (2) 高齢者虐待防止法  (3) 身体拘束の禁止 (4) 障害者虐待防止法</p> <p>II 自立に向けた介護（3時間）</p> <p>1. 自立支援  (1) 介護における自立 (2) 自立への意欲と動機付け  (3) 残存能力の活用 (4) 重度化の防止 (5) その人らしさの理解</p> <p>2. 介護予防  (1) 介護予防と介護保険 (2) 生活における介護予防の視点</p>		

科目名	3. 介護の基本	時間数	6時間
到達目標・評価の基準	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。</li> <li>・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えられる。</li> </ul> <p>【修了時の評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。</li> <li>・介護職としての共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。</li> <li>・介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。</li> <li>・生活支援の場で出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。</li> <li>・介護職におこりやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を列挙できる。</li> </ul>		
指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可能な限り具体例を示す等の工夫を行い、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。</li> <li>・介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに一人で対応しようとせず、サービス提供管理者や医療職と連携することが重要であると実感できるように促す。</li> </ul>		
学習内容	<p>I 介護職の役割、専門性と多職種連携</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護環境の特徴       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 訪問介護と施設介護サービスの違い</li> <li>(2) 地域包括ケアの方向性</li> </ol> </li> <li>2. 介護の専門性       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 利用者主体の支援姿勢</li> <li>(2) 利用者の生活意欲と潜在能力の活用</li> <li>(3) 自立した生活を支えるための援助</li> <li>(4) 重度化防止・遅延化の視点</li> <li>(5) チームケアの重要性</li> <li>(6) 根拠のある介護</li> </ol> </li> <li>3. 介護にかかわる職種       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 多職種連携の理解</li> <li>(2) 異なる専門性をもつ職種の理解</li> </ol> </li> </ol> <p>II 介護職の職業倫理</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門職の倫理意義</li> <li>2. 介護福祉士の倫理       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 介護職に求められる法的規定</li> <li>(2) 介護職に求められる行動規範</li> </ol> </li> </ol> <p>III 介護における安全の確保とリスクマネジメント</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護における安全の確保</li> <li>2. 事故予防、安全対策       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) リスクマネジメントの必要性</li> <li>(2) 事故防止、安全対策の実際</li> <li>(3) 介護事故発生時の対応</li> <li>(4) 介護事故の報告</li> </ol> </li> <li>3. 感染対策       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生活の場での感染対策</li> <li>(2) 感染対策の3原則</li> </ol> </li> </ol> <p>IV 介護職の安全</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護職の心身の健康管理       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 健康管理の意義と目的</li> <li>(2) 健康にはたらくための健康管理</li> <li>(3) こころの健康管理</li> <li>(4) からだの健康管理</li> </ol> </li> <li>2. 感染予防       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 感染管理</li> <li>(2) 衛生管理</li> </ol> </li> </ol>		

科目名	4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	時間数	9時間
到達目標・評価の基準	<p>【ねらい】 介護保険制度や障害福祉制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。</p> <p>【修了時の評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活全体の支援の中で介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。</li> <li>・介護保険制度や障害福祉制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる。</li> <li>・ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。</li> <li>・高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害福祉サービス、権利擁護や成年後見制度の目的、内容について列挙できる。</li> <li>・医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉等が行う医行為などについて列挙できる。</li> </ul>		
指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度・障害福祉制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。</li> <li>・利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害福祉制度、その他制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスの理解を促す。</li> </ul>		
学習内容	<p>I 介護保険制度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護保険制度創設の背景及び目的、動向       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人口の少子高齢化と家族による高齢者介護の限界</li> <li>(2) 1990年代までの高齢者介護の制度と社会福祉基礎構造計画</li> <li>(3) 介護保険制度の基本理念</li> </ol> </li> <li>2. 介護保険制度のしくみの基礎的理解       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 介護保険制度の概要</li> <li>(2) 保険者・被保険者</li> <li>(3) 保険給付の対象</li> <li>(4) 保険給付までの流れ</li> <li>(5) 保険給付の種類と内容</li> <li>(6) 地域支援事業</li> </ol> </li> <li>3. 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 国・都道府県・市町村の役割</li> <li>(2) その他の組織の役割</li> <li>(3) 介護保険の財源</li> </ol> </li> </ol> <p>II 医療との連携とリハビリテーション</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療行為と介護       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 医療行為とは</li> <li>(2) 在宅支援における介護職と医行為の実情と経過</li> <li>(3) 施設における介護職と医行為の実情と経過</li> <li>(4) チーム医療</li> </ol> </li> <li>2. 訪問看護       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) どんなサービスなのか？</li> <li>(2) 介護職と看護職の専門性と連携のポイント</li> </ol> </li> <li>3. 施設における看護と介護の役割・連携       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 施設での看護と介護の連携の必要性</li> <li>(2) 看護職と介護職の専門性と連携のポイント</li> </ol> </li> <li>4. リハビリテーション       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) リハビリテーションとは</li> <li>(2) リハビリテーション医療の過程</li> <li>(3) リハビリテーションと介護の連携</li> </ol> </li> </ol> <p>III 障害者福祉制度およびその他の制度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害者福祉制度の概念       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 障害と傷害者の概念</li> <li>(2) 障害福祉理念としての「自立」</li> </ol> </li> <li>2. 障害者福祉制度のしくみの基礎的理解       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 障害者自立支援法から障害者総合支援法へ</li> <li>(2) サービスの種類と内容</li> <li>(3) サービス利用の流れ</li> <li>(4) 自立支援給付と利用者負担</li> </ol> </li> <li>3. 個人の人権を守る制度の概要       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 日常生活自立支援事業</li> <li>(2) 成年後見制度</li> <li>(3) 苦情解決の制度</li> <li>(4) 個人情報保護に関する制度</li> <li>(5) 消費者保護</li> </ol> </li> </ol>		

科目名	5. 介護におけるコミュニケーション技術	時間数	6時間
到達目標・評価の基準	<p>【ねらい】            高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解する。</p> <p>【修了時の評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共感、受容、傾聴的態度、気づき等、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。</li> <li>・家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職としてもつべき視点を列挙できる。</li> <li>・言動、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。</li> <li>・記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。</li> </ul>		
指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。</li> <li>・チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。</li> </ul>		
学習内容	<p>I 介護におけるコミュニケーション</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションの意義、目的、役割           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 対人援助関係とコミュニケーション</li> <li>(2) 人間的・効果的なコミュニケーションの基本</li> </ol> </li> <li>2. コミュニケーションの技法           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) メッセージの送り手と受け手</li> <li>(2) 言語的チャンネルと非言語的チャンネル</li> </ol> </li> <li>3. 利用者・家族とのコミュニケーションの実際           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 利用者の思いを把握する</li> <li>(2) 意欲の低下の要因を考える</li> <li>(3) 利用者の感情に共感する</li> <li>(4) 家族の心理を理解する</li> <li>(5) 信頼関係を形成する</li> <li>(6) 自分の価値観で家族の意向を判断し、非難しない</li> </ol> </li> <li>4. 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 視覚の障害に応じた技術</li> <li>(2) 聴覚の障害に応じたコミュニケーション技術</li> <li>(3) 失語症に応じたコミュニケーション技術</li> <li>(4) 認知症に応じたコミュニケーション技術</li> </ol> </li> </ol> <p>II 介護におけるチームのコミュニケーション</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 記録に関する情報の共有化           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 記録の意義と目的</li> <li>(2) 記録の種類</li> <li>(3) 記録の書き方と留意点</li> <li>(4) 記録の保護と管理</li> <li>(5) 記録の実際</li> </ol> </li> <li>2. 報告・連絡・相談           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 報告・連絡・相談の意義と目的</li> <li>(2) 報告・連絡・相談の具体的方法と留意点</li> </ol> </li> <li>3. コミュニケーションを促す環境           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 会議の意義と目的</li> <li>(2) 会議の種類と運用</li> </ol> </li> </ol>		

科目名	6. 老化の理解	時間数	6時間
到達目標・評価の基準	<p>【ねらい】 加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。</p> <p>【修了時の評価のポイント】 ・加齢・老齢化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知能能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。 例：退職による社会的立場の喪失感、運動機能の低下による意欲の低下等 ・高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。 例：脳梗塞の場合、突発的に症状が起こり、急速に意識障害、片麻痺、半側感覚障害等を生じる等</p>		
指導の視点	<p>高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面の知識をつけることの必要性への気づきを促す。</p>		
学習内容	<p>I 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期の定義       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) なぜ老年期を定義する必要があるのか</li> </ol> </li> <li>2. 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 老化による心理や行動を理解するための視</li> <li>(2) 社会的環境の変化と心理</li> </ol> </li> <li>3. 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生理機能の変化      (2) 恒常性を維持する機能      (3) 感覚機能の変化</li> <li>(4) 咀嚼機能・消化機能の変化      (5) 循環器の機能の変化</li> <li>(6) 呼吸器の機能の変化      (7) 筋、骨、関節の機能の変化</li> <li>(8) 泌尿器の機能の変化      (9) 体温維持機能の変化      (10) 記憶機能の変化</li> <li>(11) 認知機能の変化</li> </ol> </li> </ol> <p>II 高齢者と健康</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の症状・疾患の特徴       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 高齢期の健康      (2) 高齢者の症状・疾患の特徴</li> </ol> </li> <li>2. 高齢者の疾病と日常生活の留意点       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 痛み（腹痛）      (2) 痛み（筋肉・骨・関節）      (3) 浮腫（むくみ）</li> <li>(4) 便秘      (5) 下痢      (6) 誤嚥</li> </ol> </li> <li>3. 高齢者に多い病気と日常生活の留意点       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生活習慣病      (2) 運動系の病気      (3) 知覚系の病気</li> <li>(4) 呼吸器の病気</li> <li>(5) 腎・泌尿器の病気      (6) 消化器の病気      (7) 循環器の病気</li> <li>(8) 脳・神経、精神の病気      (9) 介護保険の特定疾病      (10) 感染症</li> </ol> </li> </ol>		

科目名	7. 認知症の理解	時間数	6時間
到達目標・評価の基準	<p>【ねらい】 介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断基準となる原則を理解する。</p> <p>【修了時の評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。</li> <li>・健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。</li> <li>・認知症の中核症状と行動・心理症状（BPSD）等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる。</li> <li>・認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、及び介護の原則について列挙できる。また、同様に、若年性認知症の特徴についても列挙できる。</li> <li>・認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用性症候群予防について概説できる。</li> <li>・認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。</li> </ul> <p>例：生活習慣や生活様式の継続、なじみの人間関係やなじみの空間、プライバシーの確保と団らん場の確保等、地域を含めて生活環境とすること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の利用者とのコミュニケーション（言語・非言語）の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方（良い関わり方、悪い関わり方）を概説できる。</li> <li>・家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて列挙できる。</li> </ul>		
指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。</li> <li>・複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則についての理解を促す。</li> </ul>		
学習内容	<p>I 認知症を取り巻く環境</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症ケアの理念       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) その人を中心としたケア (2) その人らしくありつづけるための支援の実現</li> </ol> </li> <li>2. 認知症ケアの視点       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 問題視するのではなく、人として接する</li> <li>(2) できないことではなく、できることをみて支援する</li> </ol> </li> </ol> <p>II 医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症の概念       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 脳の機能と認知症 (2) 認知症とは</li> <li>(3) 認知症の物忘れと健康なものの忘れとの違い (4) 認知症に類似した状態</li> </ol> </li> <li>2. 認知症の原因疾患とその病態       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) アルツハイマー型認知症 (2) 血管性認知症 (3) レビー型小体型認知症</li> <li>(4) 前頭側頭葉変性症 (5) クロイツフェルト・ヤコブ症 (6) 慢性硬膜下血種</li> </ol> </li> <li>3. 原因疾患別ケアのポイント</li> <li>4. 健康管理       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 認知症の治療 (2) 認知症の予防</li> </ol> </li> </ol> <p>III 認知症にともなうところからだの変化と日常生活</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 認知症の中核症状 (2) 認知症のBOSD(行動・心理症状)</li> <li>(3) 認知症の人の環境の整備 (4) 認知症の人の環境づくりの実際</li> </ol> </li> <li>2. 認知症の人への対応       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 認知症の人にかかわる際の前提 (2) 実際のかかわり方の基本</li> </ol> </li> </ol> <p>IV 家族への支援</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族への支援       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 家族介護者の心理過程と葛藤</li> </ol> </li> <li>2. 認知症の人を介護する家族へのレスパイトケア       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) レスパイトケアとは (2) 介護職が行う認知症の家族への支援</li> <li>(3) 家族への情報提供と助言の方法</li> </ol> </li> </ol>		

科目名	8. 障がいの理解	時間数	3時間
到達目標・評価の基準	<p>【ねらい】 障がいの概念とICF、障がい福祉の基本的考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。</p> <p>【修了時の評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいの概念とICFについて概説でき、各障がいの内容・特徴及び障がいに応じた社会支援の考え方について列挙できる。</li> <li>・障がいの受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。</li> </ul>		
指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護において障がいの概念とICFを理解しておくことの必要性の理解を促す。</li> <li>・高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障がいの特性と介護上の留意点に対する理解を促す。</li> </ul>		
学習内容	<p>I 障害の基礎的理解</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障がいの概念とICF           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「障害」をどうみるのか</li> <li>(2) 障害の定義</li> <li>(3) 国際障害分類と国際生活機能分類</li> </ol> </li> <li>2. 障害者福祉の基本理念           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ノーマライゼーション</li> <li>(2) リハビリテーション</li> <li>(3) インクルージョン</li> </ol> </li> </ol> <p>II 障害の医学的側面、生活障害などの基礎知識</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体障害           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 視覚障害</li> <li>(2) 聴覚・言語障害</li> <li>(3) 肢体不自由（運動機能障害）</li> <li>(4) 内部障害</li> </ol> </li> <li>2. 知的障害           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 知的障害の心理学的概念</li> <li>(2) 知的障害の原因</li> <li>(3) 介護上の留意点</li> </ol> </li> <li>3. 精神障害           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 精神障害（疾患）の理解</li> <li>(2) おもな精神症状とその対応</li> <li>(3) 精神障害のある人の生活の特徴と介護の留意点</li> </ol> </li> <li>4. 発達障害           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 発達障害の理解</li> <li>(2) 発達障害の特性・支援のポイント</li> <li>(3) 発達障害のある人の生活ニーズ</li> <li>(4) 発達障害のある人の生活の理解と支援上の留意点</li> </ol> </li> <li>5. 難病           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 難病とは</li> <li>(2) 難病の種類</li> <li>(3) 難病による心理・行動の特徴</li> <li>(4) 難病のある人の生活の理解と介護上の留意点</li> </ol> </li> </ol> <p>III 家族の心理、かかわり支援の理解</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族の理解と傷害の受容支援           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 家族支援の視点</li> <li>(2) 障害の受容と家族</li> </ol> </li> <li>2. 介護負担の軽減           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 家族を取り巻く社会環境</li> <li>(2) 家族支援となるレスパイトサービス</li> </ol> </li> </ol>		



科目名	9. こころとからだのしくみと生活支援技術 (1) 介護の基本的な考え方	時間数	11時間/75時間
到達目標・評価の基準	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理論や法的根拠に基づく介護の基本的な考え方を習得する。</li> <li>・介護技術の根拠となる「こころのしくみ（学習、記憶、感情、意欲など）」に関する知識を習得する。</li> <li>・介護技術の根拠となる「からだのしくみ（人体の構造や機能）」に関する知識を習得する。</li> </ul> <p>【修了時の評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「介護」が理論的に法的にどのような変遷をたどってきたのかを列挙できる。</li> <li>・介護に関するこころのしくみの基礎的な知識を列挙できる。</li> <li>・介護に関するからだのしくみの基礎的な知識を列挙できる。</li> </ul>		
指導の視点	<p>介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体各部の名称や機能などが列挙できるように促す。</p>		
学習内容	<p>I 介護の基本的な考え方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理論にもとづく介護       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 介護の理論</li> <li>(2) 「介護」の見方・考え方の変化</li> </ol> </li> <li>2. 法的根拠にもとづく介護       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 介護の法的根拠</li> </ol> </li> </ol> <p>II 介護に関するこころのしくみの基礎的理解</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習と記憶に関する基礎知識       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学習のしくみ</li> <li>(2) 記憶のしくみ</li> </ol> </li> <li>2. 感情と意欲に関する基礎知識       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 感情のしくみ</li> <li>(2) 意欲のしくみ</li> </ol> </li> <li>3. 自己概念と生きがい       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 自己概念の視点</li> <li>(2) 生きがいとQOLの視点</li> </ol> </li> <li>4. 老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 要介護状態と高齢者の心理</li> <li>(2) 不適応状態を緩和する心理</li> <li>(3) 施設への入所・入居による環境の変化と心理</li> </ol> </li> </ol> <p>III 介護に関するからだのしくみの基礎的理解</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命の維持・恒常のしくみ       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 体温</li> <li>(2) 呼吸</li> <li>(3) 脈拍</li> <li>(4) 血圧</li> </ol> </li> <li>2. 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識</li> <li>3. 骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 骨と構造のはたらき</li> <li>(2) 関節のはたらき</li> <li>(3) 筋肉のはたらき</li> <li>(4) ボディメカニクスの活用</li> </ol> </li> <li>4. 中枢神経と体性神経に関する基礎知識       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 中枢神経と末梢神経</li> <li>(2) 体性神経と自律神経</li> </ol> </li> <li>5. 自律神経と内部器官に関する基礎知識       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 感覚器</li> <li>(2) 呼吸器</li> <li>(3) 消化器</li> <li>(4) 泌尿器</li> <li>(5) 内分泌</li> <li>(6) 生殖器</li> <li>(7) 循環器</li> <li>(8) 血液</li> </ol> </li> </ol>		

科目名	9. こころとからだのしくみと生活支援技術 (2) 自立に向けた介護の展開	時間数	54時間/75時間
到達 目 標 ・ 評 価 の 基 準	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。</li> <li>・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。</li> </ul> <p>【修了時の評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護等に応じた在宅・施設等それぞれのま面における高齢者の生活について列挙できる。</li> <li>・要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点、その根拠等）について概説でき、生活の中の介護予防、および介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。</li> <li>・利用者の身体の状態に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。</li> <li>・人の記憶の構造や意欲等を支援と結び付けて概説できる。</li> <li>・人体の構造や機能が列挙でき、何故行動が起こるのかを概説できる。</li> <li>・家事援助の機能と基本的原則について列挙できる。</li> <li>・装うことや整容の意義について解説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。</li> <li>・体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな車椅子、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。</li> <li>・食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。</li> <li>・入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。</li> <li>・排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。</li> <li>・睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。</li> <li>・ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携（ボランティアを含む）について、列挙できる。</li> </ul>		
指 導 の 視 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。</li> <li>・例えば「食事の介護技術」は「食事という生活の支援」と捉え、その生活を支える技術の根拠を身近に理解できるように促す。さらに、その利用者が満足する食事がしたいと思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。</li> <li>・「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えができるように、身近な素材から気づきを促す。</li> </ul>		

学 習 内 容	<p>1. 生活と家事  (1) 生活と家事の理解 (2) 家事援助に関する基礎的知識と生活支援</p> <p>2. 快適な居住環境整備と介護  (1) 快適な居住環境に関する基礎知識  (2) 高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具の活用</p> <p>3. 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護  (1) 整容に関する基礎知識 (2) 整容の支援技術</p> <p>4. 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護  (1) 移動・移乗に関する基礎知識 (2) 移動・移乗に関する福祉用具とその活用方法  (3) 利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗の支援 (4) 移動・移乗を阻害する要因の理解とその支援方法 (5) 移動と社会参加の留意点と支援</p> <p>5. 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護  (1) 食事にに関する基礎知識 (2) 食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法  (3) 楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法 (4) 食事と社会参加の留意点と支援</p> <p>6. 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護  (1) 入浴・清潔保持に関連する基礎知識 (2) 入浴・清潔保持に関する福祉用具とその活用方法 (3) 楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法</p> <p>7. 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護  (1) 排泄に関する基礎知識 (2) 排泄環境の整備と関連する用具の活用方法 (3) 爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法</p> <p>8. 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護  (1) 睡眠に関する基礎知識 (2) 睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法 (3) 快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法</p> <p>9. 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護  (1) 終末期に関する基礎知識 (2) 生から死への過程 (3) 「死」に向き合うところの理解 (4) 苦痛の少ない死への支援</p>
------------------	--

科目名	9. こころとからだのしくみと生活支援技術 (3) 生活支援技術演習	時間数	10時間/75時間
到達目標・評価の基準	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の各場面での介護について、事例を通じて、生活支援を提供する流れを理解し、技術を習得する。</li> <li>・利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点を習得を目指す。</li> </ul> <p>【修了時の評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護過程の目的と意義について列挙できる。</li> <li>・介護過程の展開プロセスについて列挙できる。</li> <li>・チームアプローチにおける介護職の役割と専門性について概説できる。</li> </ul>		
指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例を通じて、利用者のこころとからだの力が発揮できない要因を分析できるように促す。</li> <li>・事例を通じて、利用者本人にとって適切な支援技術は何かを検討できるように促す。</li> <li>・事例を通じて、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点について理解を促す。</li> </ul>		
学習内容	<p>I 介護過程の基礎的理解</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護過程の目的・意義・展開               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 根拠に基づいた介護の実践</li> <li>(2) 介護過程の展開イメージ</li> </ol> </li> <li>2. 介護過程とチームアプローチ               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) チームアプローチにおける介護職の役割</li> </ol> </li> </ol> <p>II 総合生活支援技術演習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 演習を行うにあたって               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生活全般にわたる側面的な支援</li> <li>(2) 生活を支援する流れ</li> </ol> </li> <li>2. 事例演習 高齡（要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から2事例を選択して実施</li> </ol>		

科目名	10. 振り返り	時間数	4時間
到達目標	<p>【ねらい】</p> <p>研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。</p>		
指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在宅、施設の何れのばあいであっても、「利用者の生活の拠点に共に居る」という意識を持って、その状態における模擬演習（身だしなみ、言葉遣い、応対の態度等の礼節を含む。）を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるよう理解を促す。</li> <li>・ 研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受講者自身に表出・言語化させたうえで、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再認識を促す。</li> <li>・ 修了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身につけるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるように促す。</li> <li>・ 最新知識の付与と、次のステップ（職場環境への早期適応等）へ向けての課題を受講者が認識できるよう促す。</li> <li>・ 介護職の仕事内容や働く現場、事業所等における研修の実例等について、具体的なイメージを持たせるような教材の工夫、活用が望ましい。（視覚教材、現場職員の体験談等、サービス事業所における受講者の選択による実習・見学等）</li> </ul>		
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 振り返り <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修を通じて学んだこと</li> <li>・ 今後継続して学ぶべきこと</li> <li>・ 根拠に基づく介護についての要点 （利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等）</li> </ul> </li> <li>2. 就業への備えと研修修了後における継続的な研修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続的に学ぶべきこと</li> <li>・ 研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるよう、事業所における実例（OFF-JT、OJT）を紹介</li> </ul> </li> </ol>		